

今、改めて見直したい金利の「力(ちから)」!

Raku
Yomi

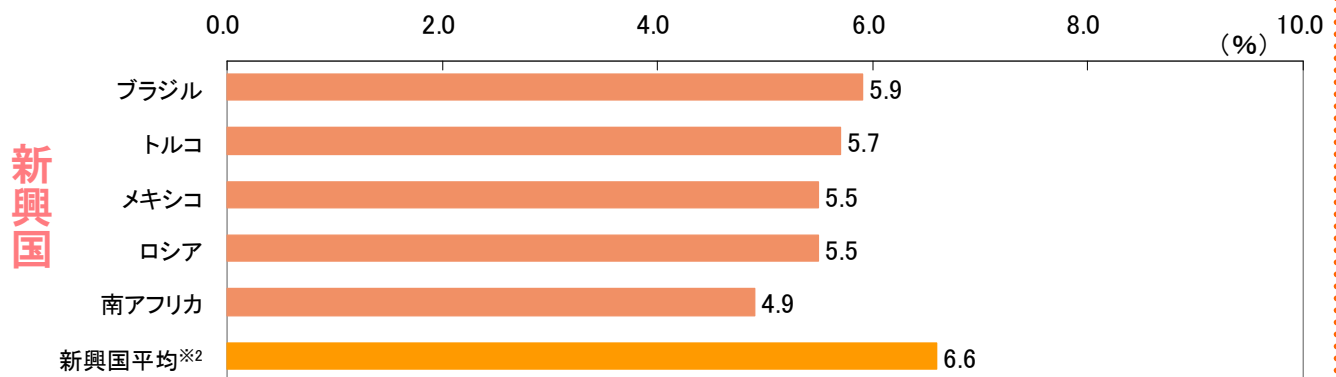
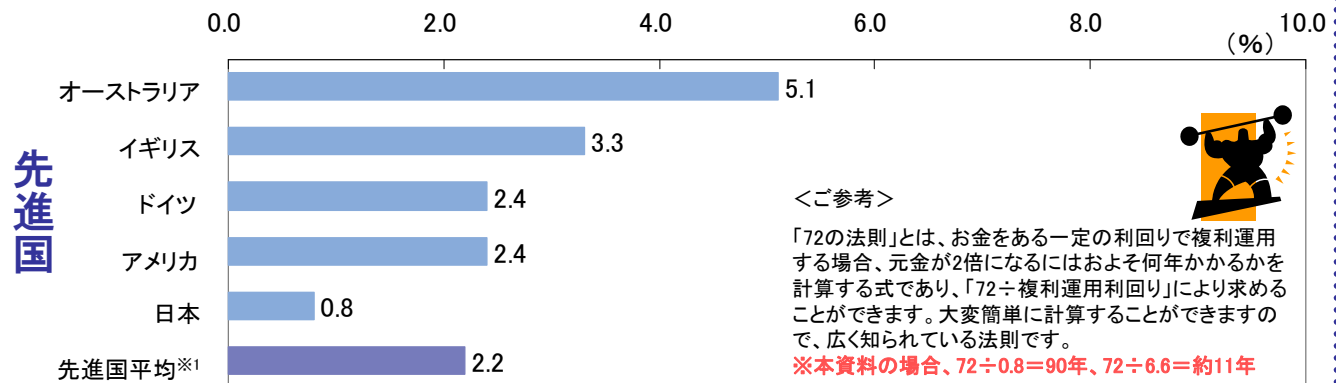
楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

2010年の世界各国の長期金利は、世界的な景気回復局面の中で概ね緩やかに上昇するとみられます。ただし、上昇ピッチは各国の景気動向に沿った動きになると予想されます。そのため、先進国に比べ景気回復の足取りが軽いとみられる新興国の金利動向が、多くの投資家から注目を集めるものと思われます。

ところで、「72の法則」という考え方を参考にすると、下図の日本の債券利回り(0.8%)で運用すると資産を倍にするには90年かかりますが、新興国平均(6.6%)で運用すると11年程度で資産を倍にできるという計算になります。もちろん、実際の海外債券投資にあたっては、為替変動や債券の価格変動などに加え、信用リスクやカントリーリスクなどが投資元本に大きな影響を与えることから、計算通りに投資成果があがるわけではありません。しかしながら、日本の景気回復の足取りの重さや金利水準の低さを考えると、海外の高い金利の力を利用することを改めて検討する必要があると思われます。

⇒次ページに続く

先進国債券と新興国債券の利回り比較
(2009年12月末)

※先進国債券は、「シティグループ世界国債インデックス」、新興国債券は、「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス」より日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※1は、先進国23カ国の加重平均
※2は、新興国15カ国の加重平均

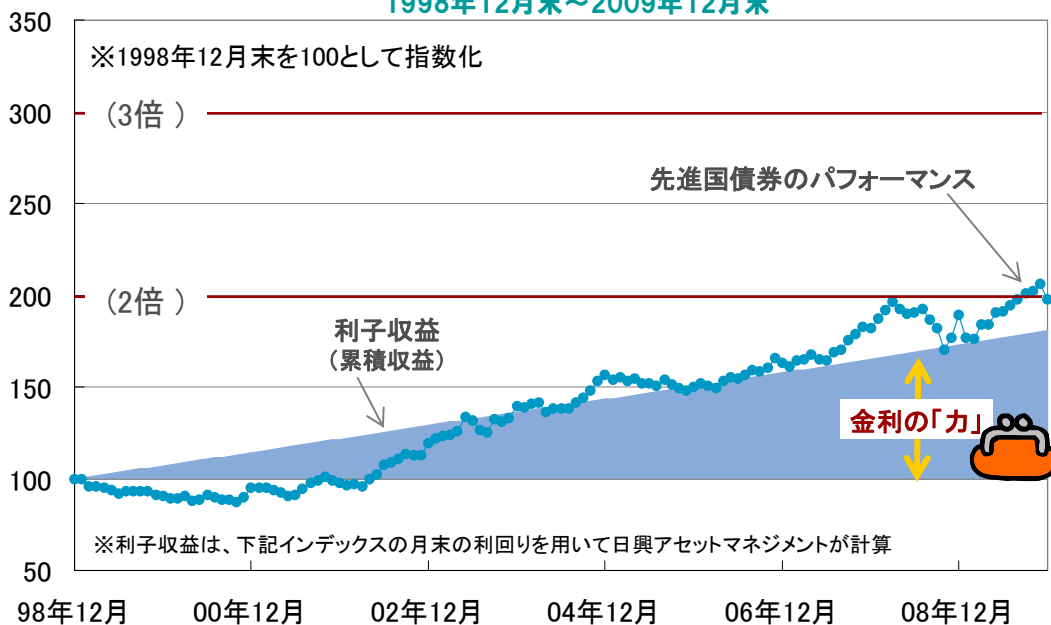
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

下図は、先進国債券と新興国債券のパフォーマンスです。双方のパフォーマンスを牽引しているものの一つが、利子収益の積み上げであることがわかります。そして相対的に金利の高い新興国債券のパフォーマンスに、利子収益の積み上げの効果が大きくあらわれていることがわかります。金利の「力」の効果が債券投資の大きな魅力の一つですが、中でも高い金利の「力」の効果を改めて見直す必要があるように思われます。

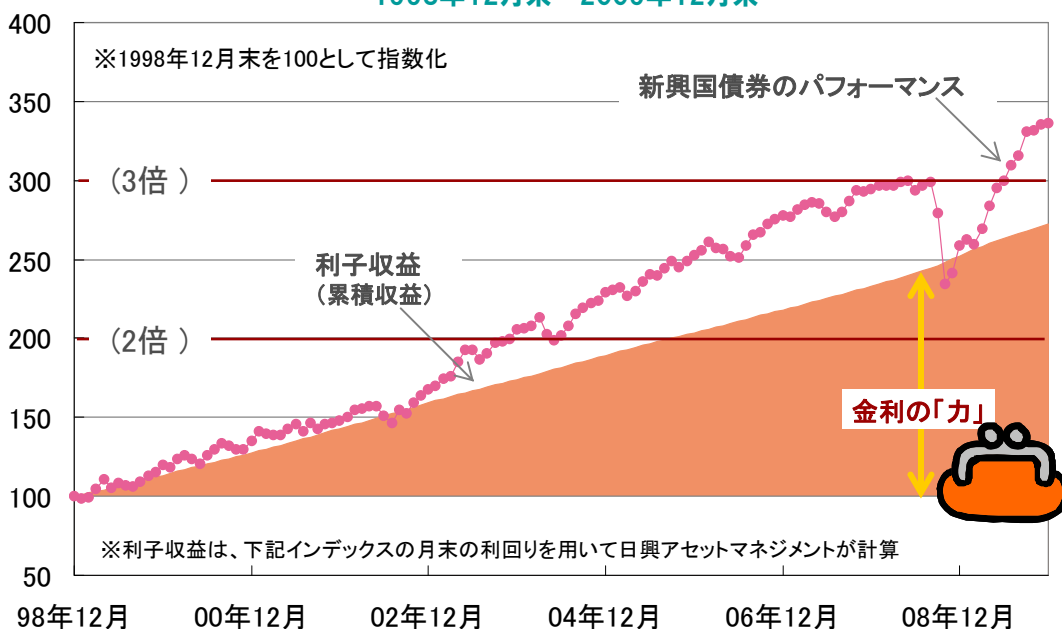
先進国債券のパフォーマンス(米ドルベース)

1998年12月末～2009年12月末



新興国債券のパフォーマンス(米ドルベース)

1998年12月末～2009年12月末



※先進国債券は、「シティグループ世界国債インデックス 除く日本(米ドルベース)」、新興国債券は、「JPモルガン・エマージング・マーケッツ・ボンド・インデックス・グローバル・ディバースファイド(米ドルベース)」より日興アセットマネジメントが作成
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。